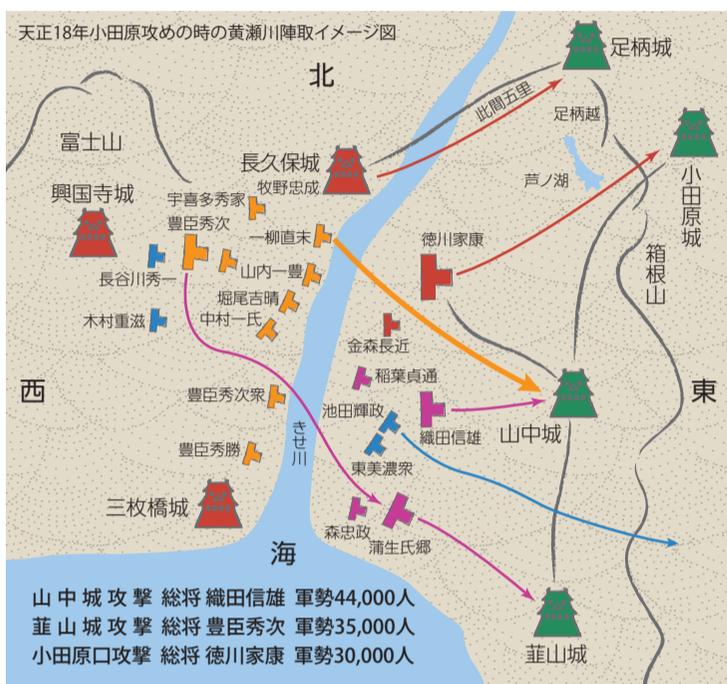




▲400年前の長久保城イメージ図



クチコミ
その2

秀吉、小田原攻めの作戦会議

天正18年(1590年)織田信長の「天下統一」の志を継いだ豊臣秀吉は、最後の難関であった「小田原攻め」を開始し、長久保城はそのための前進基地になった。

天正18年3月18日に京都を出発した秀吉は3月27日に沼津三枚橋城に到着。これより先、家康は長久保城に入城し、秀吉の到着を待った。

3月28日、豊臣秀吉と徳川家康は、ここ長久保城で山中城攻めの最後の軍議を練ったと言われている。



城山神社



長久保城の面影残る史跡の数々…。



長久保城跡碑

クチコミ
その3

山中城攻めの勇士眠る 一柳直末公首塚

秀吉の黄巾衣衆でもあった一柳直末は、山中城攻撃中に戦死。大将首を奪われることを恐れた従者、旗持留兵衛により黄瀬川のほとりに埋葬された。直末戦死の報に接した秀吉は、愁嘆すること連日に及んだという。

なお、首以外のご遺体は山中城跡 宗閑寺に、北条方の武将達と並んで埋葬されており、山中城を巡る激しい戦いの跡が伺える。



一柳直末公首塚



長泉町ふるさとカルタより



山中城跡 宗閑寺

山中の城見て眠る 直末公

尾尻公園に一柳直末の首塚がある。直末は美濃河田の城主で、天正18年(1590)豊臣秀吉の小田原攻めの際、山中城の戦いで先鋒を務め銃弾にあたり38歳の生涯を閉じた。直末に従っていた旗持留兵衛は、主人の首が敵に奪われることを恐れ前夜宿営し、山中城を望む下長窪尾尻に埋葬したと伝えられる。

長泉町指定有形文化財



八幡神像

クチコミ
その4

長久保城の守護神「八幡神像」

長泉町指定有形文化財の「八幡神像」は、長久保城の守護神で八幡曲輪にまつられていたが、長久保城廃城後、香州元硬禪師が西願寺を創建した際、同時にまつられることになったという。



「八幡神像」のある西願寺

クチコミ
その5

伊能忠敬より42年前に 日本地図を作成した長久保赤水!

長久保城主、長久保親政の子孫と称する長久保赤水は、江戸時代のベストセラー「日本輿地路程全図」を作成。

伊能忠敬の日本地図は、幕命による実測図であり、国防上不公開だったが、反面、赤水図は実測図ではないが、ほぼ正確な海岸線・地名・縮尺及び緯度経度を持ち、修正を続けた後それ以前の地図とは一線を画す優れたものとなり、明治初期まで一般に使われ、かの有名な吉田松陰も使用した。



NAGAKUBO SEKISUI 1717-1801



「改正日本輿地路程全図」(長久保和良氏蔵)

現在、長久保氏の末裔は茨城県高萩市に在住し、平成9年に城山神社で行った長久保城主太刀献式に、長久保源蔵様ご夫妻が来町された。

◀長久保赤水像(茨城県高萩市)